

平成 21 年 10 月 19 日

職員訓示（概要）

市民の皆様の温かいご支援を賜り、無投票にて再選を果たすことができ、この 4 年間の市政の取組みを高く評価いただいたことを大変嬉しく思っています。

4 年前に市長に就任した際に、私は「初代の越前市長」として、次の 3 点を心掛けることを決意しました。それは、(1)「武生と今立の融和」を図り、一体的なまちづくりを推進すること、(2) 地方分権時代を迎え、「元気な自立都市」の基盤を「市民との協働」により築いていくこと、(3)「現地現場主義」を徹底し、市民の目線に立った市政運営を行うこと、の 3 点です。

お蔭様で、市民の皆様の温かいご支援の下、市議会の深いご理解を頂き、職員の皆さんも各職場で大いに奮闘された結果、この 4 年間に多くの成果を上げることができました。例えば、

- ・産業振興に取り組み、製造品出荷額が 1000 億円以上も伸びたこと。
- ・「こしの都 1500 年大祭」「源氏物語千年紀」「たけふ菊人形」などのイベントを開催し、年間観光客入込み数が目標の 100 万人に達したこと。
- ・「食と農の創造条例」を制定し、農業の振興や食の安全確保に関する取組みを開始したこと。
- ・「学校施設耐震化推進計画」を策定し、年次計画に基づく耐震化を進めるとともに、学校施設の情報化を推進したこと。
- ・福祉に関する諸計画を策定し、福祉のまちづくりを計画的に進めたこと。
- ・国から「中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、蔵の辻での「壺の市」等の開催により、中心市街地の歩行者数が増加したこと。
- ・戸谷片屋線の整備促進、新清水谷トンネルや笠倉トンネルの開通、東部下水道の供用開始など、都市基盤の整備が進んだこと。

- ・「里地里山全国フォーラム」の開催など、地域住民との協働による里地里山の保全再生活動を推進したこと。
- ・防災体制の強化や「交通死亡事故ゼロ 500 日」の達成など、安全で安心なまちづくりが進展したこと。
- ・自治振興会の取組みなど、市民自治活動が着実に前進したこと。

しかし、順調に進展した本市のまちづくりも、昨年の秋以降は世界同時不況の影響で、深刻な経済・雇用情勢に直面しており、引き続き国や県と連携し、積極的な経済・雇用対策を推進していくことが喫緊の課題と認識しています。

併せて、不況の背景にある日本の大きな課題にメスを入れ、越前市から新たなまちづくりのうねりを起こしていきたいとも決意しています。

現在、日本全体が閉塞感に覆われている大きな要因は、近年、日本人が目先の利益に踊らされ、他人を思いやる心を失い、自然との共生を軽視してきたことにあると、私は考えています。

そこで、越前市においては、国府の歴史や文化を大切に継承し、夢を育む教育を推進すること、産業と環境との融合を進め、ものづくり技術の一層の振興を図ること、コウノトリが再び飛来することを夢見て、環境調和型農業に力を注ぐことなど、人と人との絆づくりや自然との共生を重視した、安定感と安心感のある市政を目指していきたいと決意しているところです。

そのために、市総合計画の基本計画(5年間の中期計画)を来年度に、1年前倒して改定し、政権交代に伴う国の政策変更や地方財政計画の見直しに的確に対応するとともに、私が今回の市長選挙に掲げたマニフェスト〈えちぜん「新」元気プログラム〉を総合計画に確実に位置付けたいと考えています。

もちろん、その際には、市民や市議会等の幅広い意見の反映に努めるとともに、職員の皆さんの豊富な行政経験を大いに発揮してもらい、市民力を結集した基本計

画を策定していく積みりです。

今後も、「元気な自立都市 越前」の創造を目指して、市民との協働を図り、長期的な視点に立ったまちづくりを推進してまいりますので、職員の皆さんには、引き続き「現地現場主義」を徹底し、市民の目線に立った市政運営を心掛けて頂くことをお願いします。

結びに、現在、新型インフルエンザが流行していますが、市民の安全確保はもとより、職員の皆さんも健康管理には十分に留意し、市政の発展と市民福祉の向上のために大いに活躍されることを祈念し、訓示いたします。